



ネギを加害する微小害虫の防除を徹底しましょう！

ネギの葉を食害するネギアザミウマは、近年、多発傾向が続いており、防除が難しくなっています。また、ネギハモグリバエは、年5~6回発生を繰り返し、幼虫がネギの組織内に食入するとその痕が白い線状のスジになります。近年は従来とは別系統の「ネギハモグリバエB系統」が出現し、激発すると、葉が白化したような著しい被害になるために問題となっています。ネギコガは、5~6月頃から年5~6回発生します。幼虫が葉肉内に潜入し、葉の内側から表皮を残して食害するため、不規則な白斑や透明斑となって穴の開くことがあります。また、アブラムシ類は、春と秋に寄生が多くなり、ウイルス病の媒介虫となることがあるので注意が必要です。

ネギの微小害虫が問題化する背景には、ネギの周年栽培が増えており、繁殖に有利なことや一部の薬剤に抵抗性が発達してきたことなどが要因と考えられます。

これらの微小害虫は、**高温少雨の気象条件で多発生する傾向があります。多発生すると防除効果が劣りますので、発生初期~少発生のうちに防除を徹底してください。**



<防除のポイント>

1. アザミウマ類など微小害虫は増殖速度が速いため、発生初期に短期間（一週間程度）で2~3回集中して農薬散布を行うと効果的といわれています。なお、特効薬的に殺虫剤を使用する場合は、抵抗性を助長させないためにも分類（コード）の異なる薬剤でローテーション散布を行い、散布後は必ずそれぞれの防除効果を確認してください。
2. ネギは、薬液の付着しにくい作物ですので、薬液が付着しやすいよう、展着剤を加用してください。また、微小害虫は下葉や葉鞘のすき間など薬液のかかり難いところに生息するため、十分な量の薬液で株全体に散布することが重要です。

表1 ネギのネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ネギコガ、アブラムシ類の主な防除薬剤

(令和5年5月16日現在)

薬剤名	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	ネギコガ	アブラムシ類	使用量または希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
ベリマークSC	○	○			400倍 (0.5ℓ/セルトレイ等※灌注)	育苗期後半~定植当日/1回	28
	アザミウマ類	ハモグリバエ類			2,000倍 (0.5ℓ/m ² 株元灌注)	収穫7日前まで/1回	
スタークル顆粒水溶剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	○		50倍 (0.5ℓ/セルトレイ等※灌注)	定植前日~定植時/1回	4A
ベストガード粒剤	○	○			5g/培土ℓ (育苗培土混和)	は種時/1回	4A
					6kg/10a (植溝処理土壌混和)	定植時/1回	
	○	○			50g/セルトレイ等※(使用土壌約3~4ℓ)散布	定植当日/1回	
ディアナSC	○アザミウマ類	○	○		6kg/10a (株元処理)	収穫前日まで/3回以内	
ベネビアOD	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類			2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
アグリメック	○アザミウマ類	○			2,000倍	収穫前日まで/3回以内	28
アクタラ顆粒水溶剤	○	○			500~1,000倍	収穫3日前まで/3回以内	6
ファインセーフフロアブル	○アザミウマ類				1,000~2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	4A
プレバソンフロアブル5		○			1,000~2,000倍	収穫3日前まで/2回以内	34
		○ハモグリバエ類	○		2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	
ハチハチ乳剤	○アザミウマ類	○	○	○	2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	28
グレーシア乳剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	○		1,000倍	収穫7日前まで/2回以内	21A
リーフガード顆粒水和剤	○	○	○		2,000~3,000倍	収穫7日前まで/2回以内	30
カスケード乳剤	○	○			1,500倍	収穫7日前まで/2回以内	14
スミチオン乳剤	○アザミウマ類				4,000倍	収穫14日前まで/3回以内	15
			○		700~1,000倍	収穫14日前まで/2回以内	
ダイアジノン乳剤40				○	1,000倍	収穫14日前まで/2回以内	1B
				○	1,000~2,000倍	収穫14日前まで/2回以内	
	○アザミウマ類			○	1,000~2,000倍	収穫21日前まで/2回以内	
		○	○		700~1,200倍		
					1,000~2,000倍		
					1,000倍		

注) 1. ※印は、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4ℓ)を略しました。
 2. 薬剤の中には、上記処理以外の登録もあります。各薬剤の成分別総使用回数を超えないよう十分に注意してください。
 3. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。